児童養護施設　フランシスコの町

フランシスコの町だより

第 54 号
令和 4 年 1 月 20 日発行
〒370-3511
高崎市金古町 830－3
TEL：027－373－1021
FAX：027－373－7739
https://www.francisco.or.jp/

コロナ禍の中にもクリスマスは訪れ、小さな子供たちとのお祈りの時間と調理職員の心つくしのクリスマスメニュー、美味しいケーキ・・・お祝いの形は変わっても神様はいつも溢れるほどにお恵み与え、準備してくださいます。

ご支援者のみなさまには、子供たちへの暖かなプレゼントをいただき、いつもフランシスコの町に心を砕いて下さることに心より感謝申し上げます。

数年前は食堂にステージを作り、子どもたちがクリスマス会に訪れるお客様へのおもてなしや歌、劇などに楽しいひと時を過ごしたものでしたが、今年は各ユニットでクリスマスをお祝いし、これもまた、味わい深いものであったと思います。

2 年にも及ぶコロナの影響は様々な形で地球上に影響を与え、多くの人の命や大切なものを奪い去っています。大人でも精神的苦痛を受けてつらい思いをしている方が多い中、子供への影響は計り知れなく、どんなにか小さな心で今を必死に耐えようとしていることでしょう。2022 年は子供たちの笑顔が少しでも増えるようにと願っております。

さて、フランシスコの町では前回のフランシスコだよりでもお示しした通り、子供たちのための情操教育の一環として、音楽と英語を楽しく学べる準備を進めています。これは一つの足掛かりですが、外部の講師をお招きすることにより、子供たちがいろいろと吸収し、楽しさの中に社会とのつながりを深めることが大切だと思っております。

神父様からの待降節メッセージに、「時間の中で生きている私たちにとって「待つ」ということがとても大切なことです。子どもの成長には時間がかかります。病気からの回復にも時間がかかります。愛する家族の死の悲しみから立ち直るにも時間がかかります。人間にとって意味ある事、大切なことは時間がかかります。ですから待つ心をしっかり整えることは生きる上で大切なことです。」・・・・とありました。

今、心に響くメッセージでした。神様が時をどのようにもたらして下さるか、子どもたちの成長の時を待ちたいと感じています。

これからも皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

理事長　齊藤　明美

痛むほどの愛を

施設長　武井　望

皆さん、新年あけましておめでとうございます。旧年中は温かいご支援をありがとうございました。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年からワクチン接種も進み、落ち着くかにみえた新型コロナウィルスですが、新たにオミクロン株が猛威を振るい、一月以降感染が急増しています。新型コロナとの闘いはまだまだ続きそうです。

二年にわたる新型コロナに伴う様々な制限・自粛のストレスもあってか、昨年は児童の荒れが目立った一年でした。児童同士のケンカ、職員への暴言・暴力、夜間の無断外出、殴る・蹴るで穴だらけになったユニットの壁…。子どもたちの荒れた姿を目の当たりにしながら、それでも子どもたちと向き合い続ける職員の献身的な働きに感謝する一方で、職員の心身の疲弊に心を痛めています。もっとよいアドバイスができれば、もっと良い形でサポートができれば…。施設長としての自分の不甲斐なさ、未熟さと向き合う一年でもありました。

様々な課題に直面し、打ちひしがれそうになる時もありますが、それでもなお、前を向いて歩んでいきたいと思います。職員も苦しいですが、子どもたちも苦しいのです。暴言・暴力、その他の問題行動でしか感情を表現できない子たちです。荒れ果てた姿を通して、子どもたちは自身の苦しさ、寂しさを私たちに訴えているのです、叫んでいるのです。その声に応える、その姿に向き合うのが私たちの務めです。どの子もみな、神が望まれてこの世界に誕生した素晴らしい存在です。暴言を吐かれても、暴力があっても、大切な宝物である子どもたちをどこまでも愛し、向き合い続けていきます。

今後、フランシスコの町では地域小規模施設の増設を計画しており、今年はその準備を本格的に進めることになります。同時に、地域小規模施設を担う職員の育成にも力を入れていきます。どのような形であれ、子どもたちが安心して生活できる施設、大切にされていると実感できる施設を目指して、これからも子どもたちの養育に努めてまいります。聖フランシスコがいつも傍らで私たちを支え、進むべき道を示してくださると信じつつ。

「真の愛は痛みを生む原因となります。
イエスは、ご自分の愛の証として十字架上で死なれました。
母親も、一人の子どもを産むためには、苦しまなければなりません。
もしあなた方が本当に互いに愛し合っているなら、犠牲を厭うことはできないはずです」

～マザー・テレサの言葉より～

苦情解決報告

令和元年度の苦情解決
（令和 3 年 7 月 1 日から令和 4 年 1 月 1 日時点）

苦情・要望件数（保護者 0 件、職員 0 件、地域住民 0 件、児童　14 件）

内容：施設設備　1 件、職員資質　0 件、施設生活　13 件

施設では提出された苦情、意見を月に 1 回（主に第 2 土曜日）、外部より第三者委員 2 名（元教諭、地元の主任児童委員）を招いて苦情解決委員会を開催し、対応を協議しています。結果を事務室前掲示板に張り出すとともに当事者には担当者から個別に伝え、苦情解決に当たっています。

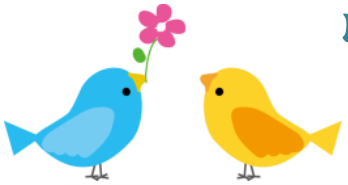
令和 3 年度～　行事予定

（1 月～6 月）

※今後の新型コロナウィルス感染症による情勢の変化によっては、予定していた行事を行わない場合もございます。

1 月　各棟でレクリエーション
2 月　節分
3 月　イースター
4 月　新学期スタート
5 月　各棟でレクリエーション
6 月　田植え

フランシスコの町では、引き続き　新型コロナウィルス感染症予防対策として、職員・児童の手洗いうがいの徹底、毎日の検温、換気・施設内消毒を行うと共に、外出場所の制限、面会や外泊時の注意喚起を行っております。
　各機関や関係者様、保護者の皆さまにはご迷惑をおかけしておりますが、感染拡大を防ぐためご協力をお願いいたします。



皆様の善意に感謝いたします

（令和３年７月１日～令和４年１月１日までに頂いたものについて）

ボランティアの方々（順不同、敬称略）

新型コロナウィルス感染症予防のため、ボランティアは感染対策を徹底しつつ、段々とお願いすることになりました。

茶道教室の伊藤さん、赤十字青年奉仕団の皆様、ありがとうございました。

寄付金を下さった方々（順不同、敬称略）

反町彩子、齊藤明美、高崎シンフォニーロータリークラブ、大沢喜代美、高崎天使幼稚園、日本児童養護施設財団、DIC グラフィックス株式会社群馬工場、DIC 労働組合群馬工場支部

寄贈品を下さった方々（順不同、敬称略）

太陽誘電、岩田養鶏場、山口、高橋きん子、高崎シンフォニーロータリークラブ、内藤彰伸、金谷、小池和也、間庭農園、あかつきの村、町田、榛名酪連、金澤則明、マルハン、D ステーション、中里勉、狩野、富澤光彦、北川眼科、とみつね、プロジェクト、JR 東労働組合、山田サンタ、司厨士会、素敵亭、日本鏡餅組合、田端、反町彩子、DIC 労働組合、フィリップモリス、須田工業、ヤマトロジスティクス、茂木、橋本興東、日本出版販売、今井靖彦、大相撲地方巡業企画運営興行部長、植木嵩行、佐藤諭子、カトリック高崎教会、株式会社 ASUKA 谷津敬介、ダイナム、モギカバン、原田ガトーフェスタハラダ、北関百瀬、新妻耕太、

編集後記

今年も新しい年を迎えることが出来ました。例年より年が明けることを心待ちにしていたのは施設が昨年、児童、職員共に試練の年だったからでしょうか。年が明けたからといって大きく改善するわけではないのですが、節目があることに救われた年明けでした。春よ、来い。（櫟）

フランシスコの町では随時寄付・寄贈を受け付けています。寄贈品についてですが、衣料品や文房具は学校指定のものもあり、子ども達の好みに合わせたものを購入させて頂いております。ご寄贈頂ける際には、電話でお問い合わせくださいますよう、お願い申し上げます。皆様の温かいご支援をお待ちしております。

ご寄付金お振込先…**銀行：ゆうちょ銀行**

振込先：００３８０－２－１７０９４

名義：フランシスコの町　友の会